

# 温泉利用状況報告書（個表）の 記載上の注意事項

（報告者用）

## 1 総括

### (1) 個表の記載例について

次の記載例を参考に記載すること。

- ア 報告者が、「温泉採取者であって、自らが温泉利用者である」の場合・・・【記載例1】
- イ 報告者が、「温泉採取者であって、未利用である」場合・・・・・・・・・・【記載例2】
- ウ 報告者が、「温泉採取者であって、分湯のみを行っている」場合・・・・・・・・【記載例3】
- エ 報告者が、「分湯を受けている温泉利用者である」場合・・・・・・・・・・【記載例4】

### (2) 個表の各項目について

以下に各項目の記載方法等について、詳細を記してありますので、記載に当たっては十分注意すること。

## 2 「ゆう出路（源泉）の状況」

この区分の「ゆう出路の場所」及び「泉質」は、温泉採取者、未利用のゆう出路の所有者及び温泉を利用する施設の管理者が、他の欄は、温泉採取者及び未利用のゆう出路の所有者が、次の事項に注意の上、記載すること。

### (1) 「ゆう出路の名称」

ア 「ゆう出路の名称」は、現在使用している名称がある場合に記載すること。

イ 記載例 〇〇号泉、〇〇の湯

### (2) 「泉質」

ア 記載例 ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉

イ 分析した年月日を記載すること。（温泉法第19条に基づく登録分析機関が発行した分析書の分析終了年月日とする。）

### (3) 「利用・未利用の別」

該当する項目を○で囲むこと。

### (4) 「ゆう出状況」

ア 該当する項目を○で囲むこと。該当項目が複数である場合はその全てを○で囲むこと。

イ 「未利用」の場合の「自然ゆう出」や「掘さく自噴」は、現に温泉を利用し得る状態にありながら、利用されていない場合のことであり、「動力揚水」とは、動力を可動することにより揚水できるゆう出路である。

### (5) 「ゆう出量（揚水量）及び温度」

ア 測定場所は、ゆう出口（測定孔）とし、本年3月に測定した結果を記載すること。

なお、ゆう出口での測定が困難な場合には、利用施設等において測定するものとし、「備考」にその理由及び測定場所を記載すること。

また、本年3月の測定結果がない場合は、それ以外の結果でもやむを得ないが、測定月日を必ず記載すること。

イ 「未利用」の場合、「ゆう出状況」で「動力揚水」を○で囲んだときは、現在設置している動力で揚水可能な量を記載すること。

### 3 「温泉利用施設の状況」

この欄は、温泉を利用する施設の管理者が、次の事項に注意の上、記載すること。

#### (1) 「利用する施設の場所」

「利用する施設の名称」は、現在の利用されている名称を記載すること。

#### (2) 「利用する施設の種類」

##### ア 「利用許可対象施設」

記載例 宿泊施設、公衆浴場、老人福祉施設、病院、リハビリテーション施設、プール、レジャー施設

##### イ 「利用許可対象外施設」

記載例 工業用（製塩等）、温室栽培（トマト等）、水産養殖（テラピア等）、自家用（個人住宅、その他施設）、床暖房、ロードヒーティング、雑用水

#### (3) 「許可数又は箇所数」

ア 利用許可対象施設の場合は、許可件数を浴用と飲用に分けて記載すること。

イ 利用許可対象外施設の場合は、当該施設の箇所数を記載すること。

#### (4) 「利用量」

ア 施設における現在の利用量を記載すること。

イ 循環ろ過方式を用いている場合は、ゆう出路からの揚水量を下段にカッコ書で併記すること。

ウ 多段階利用により、浴用・飲用とその他の目的の両方に利用する場合は、重複した利用分を、「利用許可対象外施設」にカッコ書で記載すること。

※ 多段階利用の具体例

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| { | 例1 熱交換後、浴用・飲用に利用している場合     |
|   | 2 浴用・飲用の利用後に、他の目的に利用している場合 |

エ 「利用許可対象施設」と「利用許可対象外施設」の合計が、当該施設への供給量と一致すること。ただし、循環ろ過方式の場合は、利用量ではなくカッコ書された揚水量で算出し、多段階利用の場合は、カッコ書された利用量は算入しない。

#### (5) 「許可対象施設の利用者数等」

ア 「年度延べ利用者数」は、前年度の実績を記載すること。

イ 「うち延べ宿泊利用者数」は、前記アの内数として、宿泊者数を記載すること。

#### (6) 「備考」

利用する施設が、循環ろ過方式を用いている場合又は温泉を加温している場合は、その旨を、また、未利用のゆう出路については、未利用になった直近（利用したことがない場合にあっては、利用計画当初）の利用目的を記載すること。

### 4 その他

温泉採取者が施設管理者を兼ねている場合であって、1つのゆう出路に対し、利用する施設が複数あるときは、「温泉利用施設の状況」区分に係る部分を別途作成し、記載すること。